



11月 ちとせだより

幼保連携型認定こども園
神戸 YMCA ちとせ幼稚園

ラグビーワールドカップが、事前の予想をはるかに超えて盛り上がっています。私も、日本代表の試合はもとより、世界の強豪同士の試合もテレビで大いに楽しんでいます。試合そのものがスピーディーで、プレーの連続性が高く、一瞬たりとも目が離せません。凄いエンターテイメントです。

でも、私が大学生の頃のことですが、サッカー部だった私の練習着もボロボロのTシャツでしたが、同じグラウンドで練習しているラグビー部の友人はもっと酷くて「あの練習ジャージを洗濯機に入れたら洗濯機が壊れるに違いない。まだ練習前なのに」という有様で、ボールもヘッドギアもタックル練習用のサンドバッグも全部「黄土色」、つまりグラウンドの土の色でした。当時も颯爽としたラグーマンは居られたのですが、ラグビーのイメージは「汚い」「痛い」でした。

この変化は、芝生のピッチ（この呼び方も最近ですよ）の普及が、観客側の「痛そう」という見た目からの印象を軽減したことが貢献していると思います。

そして、テレビの性能向上。以前はテレビカメラも、ラックやモールでボールを見失っていました。今は全てが鮮明に映し出されて、タックルに来る選手の形相も、それをすり抜ける選手の躍動する姿も、色々な角度から、速度を変えて観ることができます。

世界の強豪と対等に戦えるほどに日本代表が強くなったことが盛り上がり一番大きな要因ですが、シューズやジャージ等の道具、1年中枯れない芝生のピッチ、高精細な映像、そういった技術の進歩がタイミングよく合わさったことで、さらに盛り上がったのではないかと思います。そして、特別な誰かがヒーローになるのではないという種目の特性と、試合後の、敵も味方も全員のやり切ったさわやかな表情が心に響くのかもかもしれません。

一方で、台風が連続して上陸・接近し、大きな被害が出ています。平時なら、川が流れる風景は心に安らぎを与えてくれるのですが、橋も堤防も巻き込んでいく濁流や、泥水に飲み込まれた街の映像には恐怖と大きな喪失感を覚えました。

被災し、幸い命は守ることができた人たちも、日常の生活が根こそぎ奪われてしまっています。復旧は、全てを覆い尽くす泥との戦いですが、終わりが見えない絶望感との戦いでもあるでしょう。

技術革新によってさらに安全な治水インフラが整備されることを期待しながら、被災した方たちの絶望感との闘いを、その苦しさを分かち合うことで、私たちは支えることができます。

神戸 YMCA は、全国の YMCA と協力しながら被災した地域を支援する活動を開始しました。支援募金の受付も開始しています。

銀行振込は、三井住友銀行三宮支店（普）3136953（名義）神戸 YMCA です。（振込人氏名の前に「19 ゴウ」と付記してください。）

クレジットカードが使える寄付の WEB サイトもあります。（<https://kifu-kobeymca.org/fund>）。ご賛同いただける方は、ぜひご協力ください。

年主題 『ことばに満たされて ～ひびきあう～』

<年主題聖句> 「その人は流れのほとりに植えられた木」（詩編 1 編 3 節）

11月主題 『ありがとう』

<聖句> 「わたしは、主が与えられた地の実りの初物を、今、ここに持って参りました。」
（申命記 2 6 章 1 0 節）